

第5回水稲病害虫発生予察結果(伊豆市内)

4月下旬～5月上旬田植えの早生品種(コシヒカリ・ひとめぼれ等)

【稲の生育状況と栽培管理について】

幼穂の長さは各地区で差が出ており、天城地区では約8cm、中伊豆地区では約8cm～15cm、大平・温泉場地区では約16cm～25cmとなっております。生育の早い圃場では穂ばらみ期となっております。穂ばらみ期から出穂までの期間は田んぼの水が最も必要な時期となります。この期間に水を切らすと出穂の遅れや稔実が悪くなる可能性が高まるため、田んぼの水が干上がらないように十分に注意してください。早い地区の田んぼでは7月15日頃に出穂期(田んぼ内の40～50%程度穂が出た状態)を迎えることが予測されます。(昨年の早い地区の田んぼの出穂期7月18日)

また、今年のカメムシの大量発生が予測されています。対策としては、適期タイミングで薬剤を散布し、カメムシ防除に努めてください。

なお、共同防除(ヘリ防除等)により穂揃期(1回目の散布)から大きくずれる場合は、ご自身で1回目の散布を行うことにより、適期タイミングに薬剤散布を行うことがカメムシの吸汁被害を減らすことにつながります。



出穂間近の幼穂 (25cm)



7月8日天城地区圃場にて
イネカメムシが多く見られた

【早生品種：病害虫の発生状況】

天城地区の田んぼでイネカメムシが多く見られました。下記「カメムシ防除方法」をご覧ください。

【カメムシ防除方法】

粉剤を利用した防除(スタークル粉剤・トレボン粉剤)は、出穂後の穂揃期(田んぼ全体の80～90%が出穂した時期)と乳熟期で必ず2回散布が必要となります。

散布の注意点として、カメムシ類の多くは、日没から夜間に株の上側で活動し、日中は株の下側に隠れているため、日中の時間帯に薬剤を散布してもカメムシに届かない可能性があります。薬剤散布は早朝(遅くとも9時まで)もしくは夕方(17時以降)に行ってください。

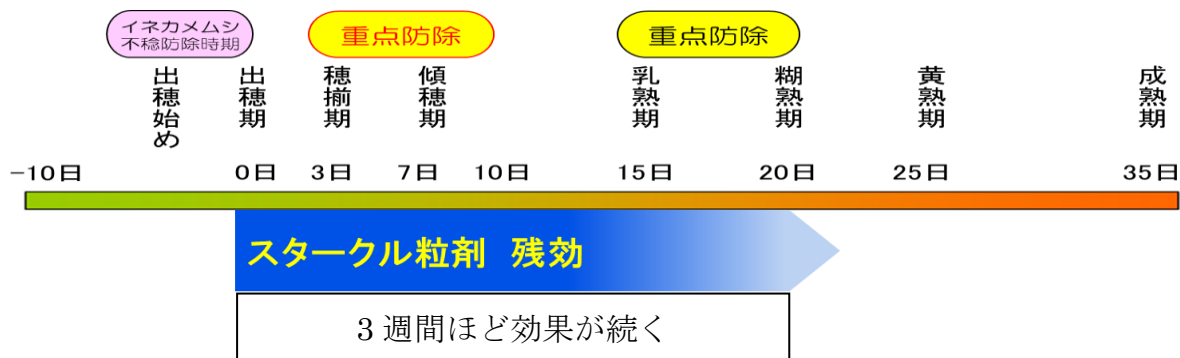
粉剤によるカメムシの防除タイミング図 薬剤：スタークル粉剤、トレボン粉剤



粒剤を利用した防除（スタークル粒剤）は、水に溶けた有効成分を植物に吸収させてカメムシの防除を行います。散布後成分が吸収されるまでに数日かかりますが、吸収された成分は3週間ほど続きます。

出穂期に1回の散布を行って下さい。 散布時の水管理は4~5日は湛水（水の深さは3cm~5cm程度）状態で管理し、散布後7日間は落水や水のかげ流しは行わないでください。

粒剤によるカメムシ防除タイミング図 薬剤：スタークル粒剤



5月中旬~下旬田植えの中晩生品種(きぬむすめ・あいちのかおり SBL)

【稲の生育状況と栽培管理について】

分けつ本数が20本以上となっている田んぼは、中干しの適期となっています。中干しの期間について、日数管理ではなく田んぼの状態を見て田面に軽くヒビが入るまで行ってください。中干しについて「第1回水稻病害虫発生予察結果」に写真など載せてありますのでご覧ください。

【中晩生品種：病害虫の発生状況】

今回の調査では病害虫につきましては確認されませんでした。

前回の予察結果・栽培管理は
こちらからご覧になれます！
次回予察予定 7月16日
(雨天中止)



作成日：令和6年7月8日
JAふじ伊豆修善寺営農経済センター
担当：竹村
電話：0558-72-4461